

現代ベルギー映画の展望

1960年代の後半以降の世界の映画界における目立った現象の一つとして、スイス、カナダ、ベルギー、オーストラリアなど、映画製作国としてはマイナーのグループに属すると思われる国々での映画製作が、それまでにみられなかったような力作を相次いで発表するなど、従来にない活気を呈してきたことがあげられます。こういった国々の映画はわが国の一般映画劇場で上映される機会に殆ど恵まれていませんが、それらの作品を鑑賞することはそれらの国々の文化・風俗などを知るうえにおいて非常に有意義なものがあるといえます。当フィルムセンターではそういった点を考慮して、これまでもわが国の一般映画劇場で上映されることの少ない国々の映画を特集上映して参りましたが、今回はベルギー大使館のご協力をえて《現代ベルギー映画の展望》として、1966年から78年までに製作されたベルギー映画の話題作を10本集めて上映することにいたしました。1972年4月に開催されました《ベルギー映画の特集》の続編としてご鑑賞いただければ幸いです。 1979年10月 フィルムセンター

* 日曜・祝日は休館。開映は午後3時・6時15分の2回（開館は12時30分で、先着順239名にて締め切り）

* 上映作品はすべて英語字幕付きです。

一般200円・学生140円・小人100円

期 日	題 名	製作年	監 督	出 演 者
10月17日(水)	ブレでの再会 (90分)	1971年	アンドレ・デルヴォー	アンナ・カリーナ、マチュウ・カリエール、ビュル・オジエ
18日(木)	別れ (87分)	1966年	ローラン・ヴルハーヴルト	ベトラ・ラズール、ジュリアン・シェネール、センネ・レフェール
19日(金)	消しゴム (88分)	1967年	リュシアン・ドロワジ	フランソワーズ・ブリオン、クロード・ティトル、アンドレ・ジェヴレ
22日(月)	田園に和解を (91分)	1971年	ジャック・ボワジュロ	クリスチアン・バルビエ、エレナ・マンソン、ジョルジュ・プージュリ
23日(火)	徴兵 (90分)	1974年	ローラン・ヴルハーヴルト	ヤン・デクレール、アンシェ・ペーンチェス、ガストン・ヴァンデルメーレン
24日(水)	アムルの息子は死んだ (90分)	1974年	ジャン・ジャック・アンドリアン	ピエール・クレマンティ、クレール・ヴァウティオン、マルコーム・ジュリック
25日(木)	燃える橋 (85分)	1975年	ギド・ヘンデリックス	マルカ・リボウスカ、ヤン・デクレール、ドリス・アルダン
26日(金)	ある修道女の死 (107分)	1975年	ポール・コレ ピエール・ドルオ	ネリー・ロジェ、ジョージヌ・ヴァンダルサム、ジュール・ハメル
29日(月)	本町通り (94分)	1976年	アンドレ・エルノット	アニー・コルディ、モルト・シューマン、バート・ストリュイス
30日(火)	いやいやながら (87分)	1978年	ジャン・マリー・ドジェーヴ	マリー・デュボワ、オリヴィエ・セドレール、フランシーヌ・プリスタン

土曜特集：米英映画特選(1)

* ヒル3時・ヨル6時15分開映。★印の「マイ・フェア・レディ」のみ1時・5時開映（ヒル・ヨル入れ替え制）。入場方法・料金は平常と同じ。

期 日	題 名	製作国・年	監 督	出 演 者
10月20日(土)ヒル	レベッカ (131分)	米・1940年	アルフレド・ヒッチコク	ローレンス・オリヴィエ、ジョーン・フォンテーン、ジョージ・サンダーズ
ヨル	年上の女 (118分)	英・1958年	ジャック・クレイトン	ローレンス・ハーヴィー、シモーヌ・シニョレ、ヒーザー・シアーズ
10月27日(土)ヒル	★マイ・フェア・レディ (180分)	米・1963年	ジョージ・キューカー	オードリー・ヘップバーン、レックス・ハリスン、スタンリー・ハロウェイ